



II 調査結果概要

1 男女の地位の平等に関する意識について

●男女の地位

「学校教育の場」(54.0%)では平等感が高いものの、「家庭生活(家事, 育児など)」(17.4%), 「政治の場」(16.0%), 「社会通念, 慣習, しきたりなど」(17.8%)では依然として不平等感が強くなっている。

また, 8つの分野と社会全体のすべてにおいて「平等である」は男性が女性を上回っている。反対に, 「男性の方が優遇されている」は, 「家庭生活」(男性: 51.9%, 女性: 62.5%), 「政治の場」(男性: 59.3%, 女性: 69.7%), 「法律や制度」(男性: 31.3%, 女性: 46.6%)で女性が男性を10ポイント程度上回っている。

●平等になるために重要なこと

男女が平等となるために重要なことは, 男性では「女性を取り巻く様々な偏見, 固定的な社会通念, 慣習・しきたりを改めること」(49.5%), 女性では「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(46.5%)がそれぞれ最も高くなっている。

また, 「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実」(男性: 35.1%, 女性: 46.5%)や「女性自身の経済力, 知識・技術の習得」(男性: 27.9%, 女性: 39.1%)を重要とする考えは, 男性よりも女性に多くなっている。

2 男女の生き方や家庭生活などに関する考え, 役割分担等について

●結婚や子どもを持つことへの考え

結婚や子どもを持つことへの考えについてみると, 「人は結婚する方がよい」で『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が8割(全体: 82.9%, 男性: 86.2%, 女性: 80.4%)を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。

「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」の回答で『そう思う』が約5割(全体: 51.5%, 男性: 47.9%, 女性: 55.9%), 「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」(全体: 42.4%, 男性: 41.5%, 女性: 43.0%)と「結婚しても, 必ず子どもを持つ必要はない」(全体: 42.5%, 男性: 39.2%, 女性: 46.0%)で『そう思う』が約4割を占めており性別にみると女性の割合が強い傾向にある。

「結婚しないで子どもを持ってもよい」で『そう思う』は約2割(全体: 25.7%, 男性: 30.0%, 女性: 22.0%)を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。

●男女の生き方や家庭生活などに関する考え

男女の生き方や家庭生活に関する考えについてみると, 「『男性(女性)だから』という決めつけは, その人の可能性を閉じこめてしまう」(82.2%), 「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」(87.1%), 「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」(87.1%)で『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が8割を超えている。

一方、「男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである」(66.2%) や「女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」(58.0%) についても約6割が『そう思う』と回答しており、家庭生活などにおける性別による固定的な役割分担意識があるということが考えられる。

性別にみると、全般的に女性より男性の方に性別役割分担意識がやや強い傾向にある。

年齢別にみると、特に「女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい」という考えに対しては、20歳代（80.3%）、30歳代（78.5%）、40歳代（80.9%）と、約8割となっている。

●家事等の分担、最終決定者

家事等の分担については、「妻」が多数を占めており、「掃除、洗濯、食事のしたくなど家事全般」は約6割（57.6%）、「育児」は5割以上（51.5%）となっている。

一方、最終決定者については、「夫」は「不動産等の購入」（31.5%）、「夫の就職・転職」（40.5%）が最も高くなっているが、「妻」は「家計費の管理」（48.4%）、「妻の就職・転職」（37.3%）が最も高くなっている。

家事等の分担を「妻」と回答した割合は男女とも高く、年齢別にみると、30～60歳代で「妻」が家事等の分担をする割合が他の年代に比べて高くなっている。

●性別役割分担意識についての考え方

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方については、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合わせた『同感しない』が52.8%、「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせた『同感する』が40.0%で、『同感しない』が12.8ポイント上回っている。

性別にみると、男性は『同感する』が45.7%、女性は『同感しない』が57.1%と高くなっている。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて『同感する』の割合が高くなる傾向となっている。

●家事・育児・介護等に携わる時間

家事に携わる時間については、男性は平日が「30分未満」（38.9%）、土曜日と日曜日は「1～3時間未満」（土曜日：32.9%、日曜日：35.3%）が最も高くなっているが、女性は「1～3時間未満」（平日：33.9%、土曜日：33.4%、日曜日：32.7%）が最も高くなっており、男女で家事に携わる時間に差があることがわかる。

育児に携わる時間については、平日では男性は「30分未満」（54.3%）、女性は「1～3時間未満」（31.2%）が最も高くなっている。土曜日・日曜日は、男性は3時間未満が7割以上（土曜日：77.2%、日曜日：71.7%）、女性は3時間以上が5割以上（土曜日：56.0%、日曜日：56.8%）を占めている。

介護・看護に携わる時間については、どの曜日でも「30分未満」が男性（平日：60.3%、土曜日：50.8%、日曜日：55.6%）も女性（平日：45.0%、土曜日：45.0%、日曜日：45.0%）も最も高くなっている。

●子どもについての考え

理想とする子どもの数と実際の子どもの数を比較すると、4割超が理想より実際の子どもの数が少ないと回答しており、理由としては、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」で5割（49.9%）、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」で3割（30.1%）、「仕事と子育ての両立が困難だから」で2割（26.3%）を超えている。

3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

●仕事、家庭生活、地域・個人の生活の理想と現実

《理想》では、男性は「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したい」が30.7%と最も高く、女性は「『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』を優先したい」が29.6%と最も高くなっている。

《現実》では、男性は「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先している」が40.3%と最も高く、女性は「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』に専念している」が28.1%と最も高くなっている。

●父親の育児参加

父親の育児参加については、現実には『仕事を優先』（「仕事を優先」と「どちらかといえば仕事を優先」の合計）が男女とも約7割（男性：69.1%、女性：67.8%）と最も高くなっている。一方、希望でも4割以上（男性：43.3%、女性：46.1%）が『仕事を優先』となっているが、2割以上の差がみられる。

「仕事と育児を同時に重視」は、現実には男女とも約1割（男性：12.0%、女性：9.5%）となっているが、希望では4割強（男性：44.9%、女性：43.4%）となっており、3割以上の差がみられる。

●男性が家事、子育て等に参加するために必要なこと

男性が家事、子育て等に参加するために必要なことについては、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が6割（59.8%）、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が4割（41.1%）、「男性の仕事中心の考え方を改めること」が3割（27.2%）となっている。

4 就業について

●仕事の能力・内容の男女差についての考え

仕事をこなす能力に対する男女差については、『あると思う』が6割以上（63.1%）となっている。

性別にみると、『あると思う』は、女性（61.4%）より男性（65.1%）の方が高くなっている。

また、男性向き、女性向きの仕事内容があるかについては、『あると思う』が9割（93.2%）を超えている。

●職場での男女の地位

職場で男女の地位が平等ではないと思う内容については、「賃金，昇進，昇格」が7割（69.1%），「能力の評価」（35.5%），「仕事に対する責任の求められ方」（35.3%），「採用時の条件」（29.9%）が3割となっている。

●中途退職の経験

途中で仕事を辞めた経験については，女性の約7割（68.8%），男性の約4割（39.1%）が「ある」と回答しており，女性は男性よりも約3割程度高くなっている。その理由については，男性では「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が4割強（44.9%）と最も高い。一方，女性では「結婚（自主的）のため」が約3割（25.5%），「家事や育児に専念するため」が1割強（13.0%）となっている。再就職については，7割以上（72.1%）が「した」と回答しており，男性（85.2%）は女性（65.6%）より2割程度高くなっている。

年齢別にみると，20歳代は6割（59.3%）となっており，30歳代～60歳代に比べて1割以上低くなっている。

5 地域活動について

●地域活動

現在地域活動をしているかについては，「している」が約3割（30.1%）となっている。活動している内容については，「町内会関係」が4割（41.3%）を超え，次に「子ども関係」（13.5%），「高齢者関係」（9.3%）などが続いている。

今後，地域活動をすることについては，「今後，地域活動をしたいと思うが，現在はそれに向けた準備はしていない」が3割強（36.5%），次に「地域活動をしたいとは思わない」（22.6%），「わからない」（20.6%）となっている。

6 ドメスティック・バイオレンスについて

●ドメスティック・バイオレンスの経験

配偶者や恋人から暴力を受けた経験については，全体では「ある」が約1割（9.6%）となっており，前回調査と比較すると3.2ポイント減少している。

暴力の内容については，「大声でどなられたり，暴言を吐かれる」（71.0%），「『ばかだ，役立たずだ』などと言われる」（43.0%），「外出や人との付き合いを制限される」（39.3%）などが上位を占めている。

相手から受けた行為について，『相談できなかった』（「相談できなかった」と「相談しようとは思わなかった」の合計）が6割（60.8%）と最も高く，「相談した」は38.3%と約4割となっている。また，女性の約5割（45.8%）は「相談した」となっているが，男性は0%となっている。

相談できなかった理由は、「相談しても無駄だと思った」が約5割（47.7%）で最も高い。性別にみると、「自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思ったから」（男性：23.5%，女性：45.5%）、「自分に悪いところがあると思ったから」（男性35.3%，女性：13.6%）と男女間で2割以上の差がある項目がある。

7 男女共同参画社会について

●男女共同参画に関する用語等の周知度

男女共同参画に関する用語等で周知度が高いものについては、「男女雇用機会均等法」が7割（72.7%）で最も高く、「DV防止法」（56.1%）、「育児・介護休業法」（53.5%）で5割、「男女共同参画社会基本法」で3割（38.0%）を超えている。

●男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望すること

男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望することは、「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が6割（59.0%）で最も高く、次いで「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」で約5割（47.0%）、「子どものころからの男女共同参画教育」が約4割（37.9%）となっている。

●男女共同参画拠点施設

男女共同参画拠点施設の役割として期待することについては、「様々な分野で実力をつけたい、あるいは新たな分野で活躍したいといった人の活動を支援するための相談助言」が4割（42.6%）と最も高く、次いで「講演会、シンポジウム、各種講座などの開催」（32.5%）、「専門家等による様々な分野における各種相談窓口」（29.0%）が約3割となっている。

性別にみると、「男性も気軽に立ち寄れ、各種交流ができる場所の提供」で男性（32.9%）が女性（25.0%）を7.9ポイント上回っている。また、「専門家等による様々な分野における各種相談窓口」で女性（34.3%）が男性（23.0%）を11.3ポイント上回っている。

